

## 本研究発表支援の助成における寄附者の皆様へ

この度は研究発表支援について、誠にありがとうございました。私は博士後期課程の時間を可能な限り研究や勉学、学会活動に充てるために本研究発表支援助成を申請するに至り、本助成により化学系学協会東北大会に参加することができました。また、本研究大会は日本化学会東北支部 80 周年記念国際会議も兼ねており、水素エネルギーに関わる光触媒や、海外の太陽光発電システム事業の説明といった貴重な公演を拝聴する機会をいただくことができました。

本学会では「アンモニア燃料の教材化」というテーマで、発表させていただきました。現在、炭素循環社会の形成において、二酸化炭素の排出量を削減する働きが見られ、非効率な化石燃料からの脱却が考えられており、アンモニアをエネルギー資源として活用する計画が立てられています。本学会では、このアンモニア資源の「酸素富化で燃焼の継続性をもつ」「輸送が簡単である」「水素のキャリアとなる」といった特徴に関する研究を発表し、また、このアンモニアの特徴から、学校教育等での実験・観察等に活用できる教材開発を紹介しました。私は小学校から高校までの教員免許を持っており、理科教育を専攻していました。そのため、学士や修士では理科教育に関わるエネルギー資源の研究を行っており、博士課程に進学後も、将来のエネルギー資源となる「水素」「アンモニア」「メタンハイドレート」に関する研究と、教材としての活用を検討してきました。実際に研究だけでなく、高校や学校教員に対し実践を行い、教材として評価を行ってきました。

本学会は寄附者の皆様の助成により自身の研究を紹介することができ、貴重な講演会に参加する機会をいただきました。残りの学生生活も研究活動と学会活動に尽力し、より一層修養を積むことで自分の目標を達成できるように精進したいと思っております。そして、自身の研究から学校教育におけるエネルギー分野がさらに発展できるように励んでまいります。

弘前大学大学院地域社会研究科

杉江 瞬